

図 1 硫黄分の分布

燃料油に含まれる硫黄分の質量比は、軽油が数～10ppm であるのと比較して、重油は数百 ppm 以上になります。そのため、燃料油に含まれる硫黄分の質量比を分析することで、重油の混入を推定する目安となります。

平成 19 年 1 月 1 日より、ガソリンスタンド等で販売されている軽油に含まれる硫黄分の質量比の上限値が、50ppm から 10ppm になりました。したがって、硫黄分の質量比が 10ppm を超えるサンプルは、硫黄分の質量比が軽油と比較して高い重油を混合等した軽油以外の燃料であると推定することができます。

図 1 に平成 18 年度と平成 19 年度に抜取調査したサンプルの硫黄分の分析結果を示します。図 1 より、硫黄分の質量比が 10ppm を超えるサンプルは、平成 18 年度 93 サンプル、平成 19 年度 84 サンプルであり、全体の約 35%と約 29%を占める結果となりました。また、硫黄分の質量比が 50ppm を超えるサンプルは、平成 18 年度 54 サンプル、平成 19 年度 47 サンプルであり、全体の約 21%と約 16%を占める結果となりました。

なお、平成 19 年 1～3 月に実施した平成 18 年度の抜取調査は、燃料が切り替わる過渡期の調査であったため、硫黄分の質量比が 10ppm を超え 50ppm 以下であったサンプルの中にガソリンスタンド等で販売されている軽油が含まれていたと推定されるため、平成 18 年度と平成 19 年度の調査結果を一概に比較することは難しいですが、メーカー指定の適切な燃料の使用に改善傾向が見られます。

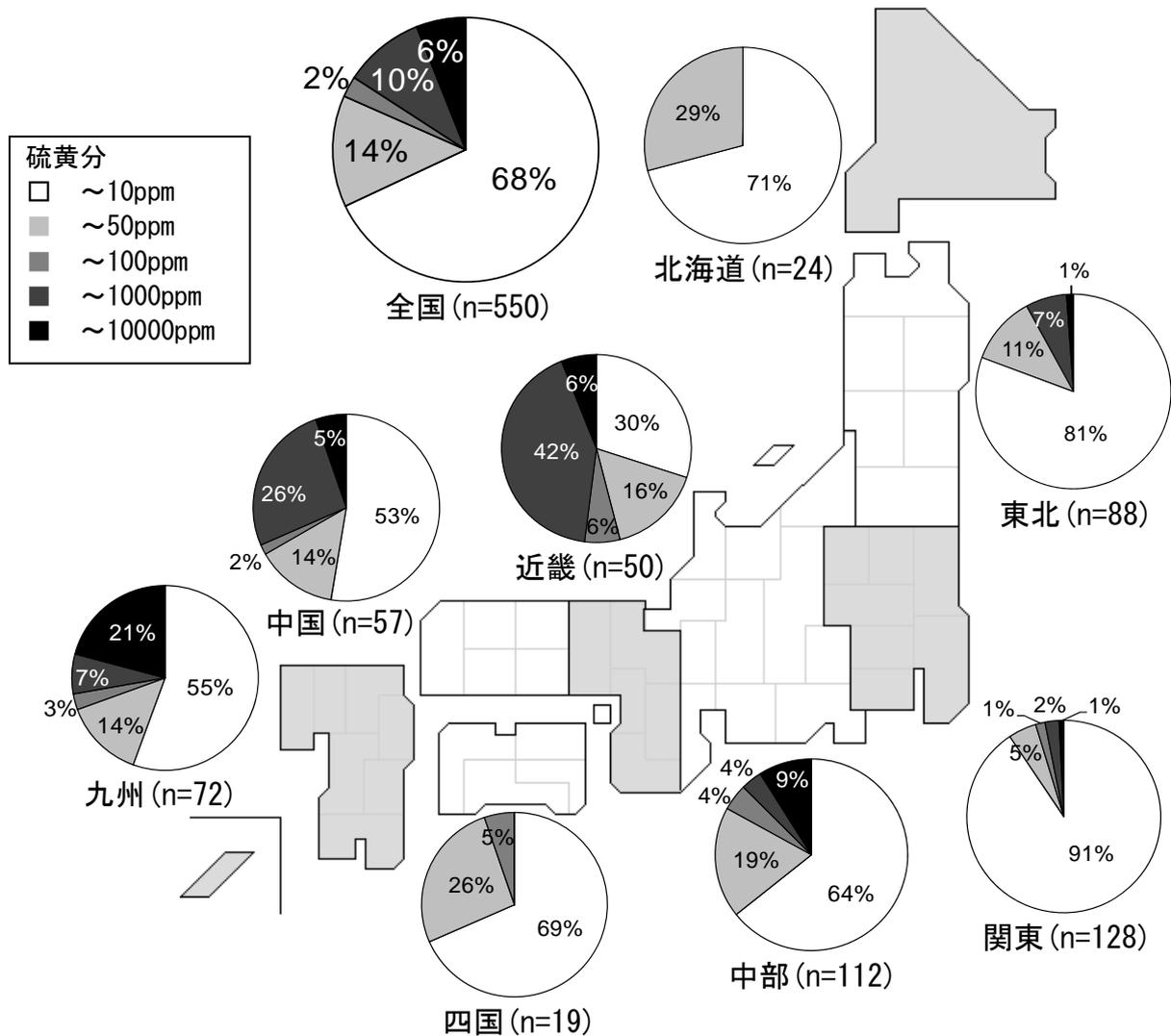


図2 硫黄分の分布（地方別）

図2に、平成18年度と平成19年度の抜取調査の全サンプルについて、硫黄分の質量比を地方別に整理したものを示します。図2より、関東と東北地方では、硫黄分の質量比が10 ppm以下のサンプルが多い結果となりました。硫黄分の質量比が50 ppm以下のサンプルまで含めると、関東以北、中部、四国地方で硫黄分の低い燃料油が比較的多い結果となりました。ただし、中部地方は、硫黄分の質量比が1000 ppm以上のサンプルがありました。また、硫黄分の質量比が100 ppm以上のサンプルが多い地方は、近畿、中国、九州地方であり、全国的に見て硫黄分の高いサンプルが多い地方は、中部以西（四国を除く）となりました。

なお、地方により抜取調査で取得したサンプル数が少ない所があるため、それらの都道府県のサンプル数を補強するために今年度は補足調査を実施することを予定しています。